

## 調査報告

# 福州神社跡地追加報告

— 創建当時に関する聞き取り調査について —

渡邊 奈津子

WATANABE Natsuko

非文字資料研究センター研究協力者

## はじめに

2013年8月、中国福建・広東省において、汕頭神社、厦門神社、福州神社の跡地調査を行った<sup>(1)</sup>。このときは主に、かつての海外神社所在地に当たる場所が現在どのようになっているかを調査しており、遺構の確認や新たな資料など成果を得られはしたが、「神社跡地」を確定できたところは汕頭神社のみであった。

そもそも旧中華民国については、海外神社及び跡地の調査・研究において、いわば研究の空白地域<sup>(2)</sup>である。この時点での神奈川大学による旧中華民国神社跡地の調査は、11社にのぼる（旧中華民国全体の2割<sup>(3)</sup>）が、三つの神社はそれまで未調査で、当時の写真や資料も収集できていなかった。

このように現地調査を行ってもなお不明点、課題が残っていたが、この調査の報告後、福州神社について新たな情報を得ることができたため、報告する。

## I 現地における調査結果

さきに、現地での調査結果を改めて確認しておく。まず、福州神社の基本的な情報は以下の通りである。

設立許可：1936（昭和11）年11月3日

祭神：天照大神、明治天皇、能久親王

当時の所在地：福州南台蒼前山<sup>(4)</sup>

福州神社は事前に、戦前の地図（図1）中ほか、笹子青子氏の手記<sup>(5)</sup>により、日本総領事館の敷地内、日本人小学校付近に存在したことを確認できた。

現地調査では、「日本人小学校」があったと考えられる場所に、現在軍人の子弟が通う「福州市倉山小学」が建てられていることを確認した。職員の方に尋ねることができ、「日本人小学校」がその場所に存在したという証言を得られた。このため、この小学校の敷地辺、すなわち現在「福建省福州市倉山区立新路25」に相当する場所に福州神社が建てられていたと推測した（図2）。



図1 戦前の福州神社所在地図<sup>(6)</sup>

図の中央部に縦書きで「日本小学」及び地図記号の「文」のマーク、その右隣に「福州神社」が見える



図2 福州市倉山小学付近の地図 (Google Map、2016年現在)

## II 聞き取り調査の内容

前回の報告を偶然インターネット上でご覧になったという佐藤明雄氏<sup>(7)</sup>が、福州神社の写真をコピーして送ってくださった。福州神社創立当時ご自身は小学生で、翌年引き揚げたとのことで、2015年8月20日、兵庫県にある佐藤氏のご自宅にてお話を伺う機会を得た。その内容を以下で報告する。調査者は中島三千男（非文字資料研究センター研究員）と報告者の2名である。

## (1) 佐藤氏と福州との関係

佐藤氏は1929（昭和4）年生まれで、1932（昭和7）年、3歳のときに大阪商船勤務の父親の転勤で福州へ渡った。福州での任期は3年であったが、父親が船長等に慕われ嘆願書が提出されるなどし、もう3年残ることになったという。

1937（昭和12）年7月7日の盧溝橋事件をきっかけに、7月20日、現地で親しくした福州の人々から別れを惜しまれつつ、女性と子どものみ台湾へ渡る。佐藤氏はこのとき小学校3年生で、1学期まで福州で暮らした。その後、8月17日に男性も台湾へ移り、居留民の日本人300人全員が引き揚げた。

佐藤氏本人はその後1980（昭和55）年10月、43年ぶりに再び訪れて以来、福州との交流を続けてきた。具体的には、日本と中国の国交正常化後、福建省の経済発展と人材交流の促進を目的に、「日本福建経済貿易協会」と「日本福建人材交流基金」を設立している。第二の故郷である福州への恩返しの気持ちで、日中友好交流、経済交流を促進してきたという。

小学校を、福州日本人小学校、神戸市東須磨小学校、神戸市高羽小学校、天津日本人小学校、最後にまた高羽小学校と移っており、高羽小学校と福州の倉山小学校の交流に協力した。1994年には「第一回福州市名誉市民」の称号が授与されている。

## (2) 福州神社について

1936（昭和11）年、佐藤氏が小学2年生のとき、11月3日に福州神社が建つ。夜ではなく、明るい時間帯に「おーーー」という警蹕（けいひつ：神を招いて御霊を入れる際のかげ声）を聞いたことを覚えている。

福州神社の写真は4点をご提示いただき、記憶をもとに起こしてくださった神社周辺の概念図（図3）と合わせて、当時の様子がより明らかになった。

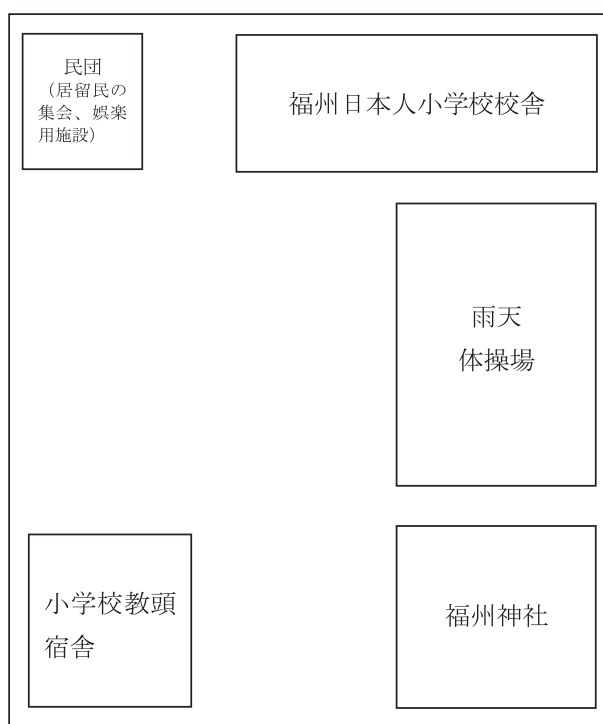


図3 福州神社周辺概念図（佐藤氏が起こしたものを基に作成）



写真1



写真2

写真1の正面に写るのは、福州日本人小学校である。小学校の右手に雨天体操場が写り込んでいる。写真2の雨天体操場右手に建つのが福州神社である。写真3は、より神社に近付いたところから撮影されている。

写真4、5はいずれも神社前で撮られた記念写真である。写真4に写る子どもたちは皆、手に野球の道具を持っている。写真5は佐藤氏がアルバムに「昭和十二年一月三日」と記していた。女性たちがきれいな模様の着物姿で写っていることから、初詣の様子だろうか。



写真3

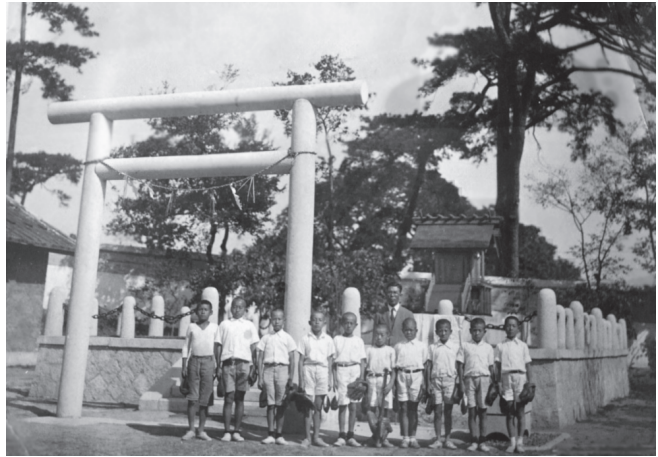


写真4



写真5

### (3) 居留地での生活

居留地では、赤煉瓦の建物の3階に住んだという。当時、この一帯には10数か国の欧米人が入り、何語で話していたのかと思うくらい何か国もの人々と交流したとのことである。欧米の人々とは、佐藤氏の母親が英語を話せたので家族ぐるみで交流があり、クリスマスやイースター等のイベント時や、月に一度開催されたイギリスの総領事館でのパーティーに呼ばれたりしたという。

福州日本人小学校はハイカラなデザインの校舎で、児童が少人数だったので皆知り合いで楽しかったという。

### おわりに

今回の調査により、福州神社が日本人小学校の建物に隣接して建てられたことが明確になった。ここで注目すべきは、福州神社が、立地にふさわしいと考えられている小高い場所でなく、居留民の建物が建つ区画内に居留地を構成する建造物の一つとして建てられたことである。この特徴は、居留民が設置した神社のモデルとしてとらえることができるかもしれない。この件についての検証は、今後他の事例について明らかになった際に、より深められることを期待したい。

またお話によると、福州神社が建てられてから居留日本人引き揚げまでの期間が短かったとはいえ、佐藤氏は福州神社へ積極的に参拝したことがなかったようであった。中国人、台湾人への強制参拝もなかったという。

その一方で、租界である天津の小学校に1940（昭和15）年2月から1941（昭和16）年7月まで在籍したときは、月一回、天津にある五つの小学校が合同で天津神社へお参りに行ったとのことである。その際、氏は日本人小学校である淡路小学校にて、6年生の学年優秀者だったため、旗を持ち先頭に立って、全校生徒1600人を連れて町を行進したという。

このお話には、時局が異なることと、諸外国との交流があった居留地と日本の施政権が及ぶ租界との違いが表れているといえるのではないか。居留地に建てられた神社の事例として今回得られた福州神社に関する情報は、大変重要なものである。

### 謝辞

この度、貴重なお話と資料を提供して下さった佐藤明雄先生に、聞き取り調査後も大変お世話になりました。海外神社研究会での報告や本報告書作成に際し、確認したいことがあったときには常に丁寧にご対応くださいました。心より御礼申し上げます。

### 注

- (1) 渡邊奈津子「中国福建・広東省海外神社跡地を訪ねて——汕頭神社、厦門神社、福州神社について——」（神奈川県非文字資料研究センター研究成果報告書『海外神社跡地から見た景観の持続と変容』2014年3月）
- (2) 福州における調査前の研究は、管見の限り、中島三千男「戦前期・中華民国における海外神社の創立について」（神奈川県法文学研究所『研究年報』20号、2002年3月）があるのみであった。現在では、稲宮康人氏が跡地の調査を重ね、随時報告を行っている（稲宮康人「中国・韓国の神社跡地報告」〈神奈川県非文字資料研究センター News Letter「非文字資料研究」34号、2015年9月30日〉など）。
- (3) 中島三千男『海外神社跡地の景観変容——さまざまな現在』（神奈川県21世紀COE研究成果叢書——神奈川県評論ブックレット37、2013年、御茶の水書房）  
橋川俊忠「新郷・徐州・南京神社跡地現地調査報告」（神奈川県非文字資料研究センター News Letter「非文字資料研究」31号、2014年1月）
- (4) 佐藤弘毅「終戦前の海外神社一覧」（『神道史大辞典』園田稔・橋本政宣編、2004年、吉川弘文館の巻末付表）
- (5) 『中国へのノスタルジア：戦時下の福州と広東』、2006年、文芸社。なお、笹子青子氏は旧居留民館館長の信國鵬介氏の娘である。
- (6) 地図資料編集会編『近代中国都市地図集成』1986年、柏書房、「21 福州（1938年）」
- (7) 元甲南大学 哲学教授（現在は甲南大学名誉教授）。注（5）の著者、笹子青子氏とは同じときに福州日本人小学校へ通い、顔見知りとのこと。